



P1

「もおかっ子“わくわく”プレゼンコンテスト」開催!

P2

子育てコラム  
真岡市の文化財

P3

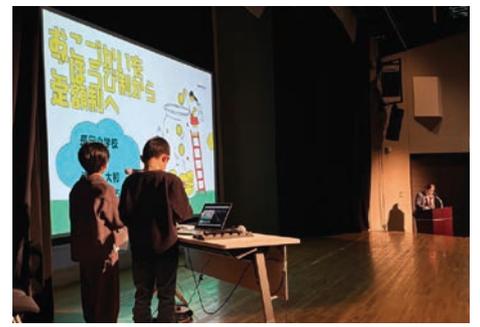
つながる・広がる・  
真岡のコミスク

P4

学校紹介(山前小学校)  
Hot・ホッと なコーナー

## 「もおかっ子“わくわく”プレゼンコンテスト」開催!

12月7日(日)に、真岡市教育委員会・真岡市教育振興会共催で「令和7年度 おおかっ子“わくわく”プレゼンコンテスト」を開催しました。このコンテストは、市内の小・中学生がテーマに沿って1人1台端末を活用したプレゼンテーションを披露するもので、これからの子どもたちに必要な問題解決の力などを育成する目的で実施しました。



今回のテーマは、「身の回りでよりよくしたいこと」。当日は、小・中学生の個人・グループ計10組、17名が参加し、自分の考えを堂々と発表していました。自発的に学習する工夫や、おこづかいのもらい方の提案、図書室をみんなで楽しめる場所にする提案など、大人ではなかなか気付くことのできない、小・中学生ならではの視点で考えられていて、どの参加者も「伝える楽しさ」「何かを変えようとする気持ち」が感じられるすばらしい発表でした。

初めてのプレゼンで緊張したし不安だったけど、楽しかったです!自信がいたので来年も挑戦したいです。(参加者)

子どもたちの柔軟な発想や視点の面白さ、プレゼン能力の高さに驚かされました!(保護者)

人前に立つことが苦手だったのに、堂々と発表する姿に感心しました。プレゼンを通して一回り成長した姿が見られて嬉しかったです。(保護者)

「身の回りの課題」について考えるきっかけになって、とてもいい経験でした。(参加者)



### ☆受賞作品 (敬称略)

#### 【中学生部門】

- 最優秀賞:「もおかっ子 自発的 study PJ」※PJ…プロジェクト 真岡中学校 2年 わたなべ みう 渡辺美羽
- 優秀賞:「睡眠について」久下田中学校 3年 とちもとあみ やましろあゆな 栃本愛美・山代杏優奈・アゲリオン チアサケイ
- 優秀賞:「真岡市の災害対策について」真岡中学校 2年 大塚ひまわり

#### 【小学生部門】

- 最優秀賞:「図書室の利用率を上げるには?」長田小学校 6年 おおさわあやね 大澤彩音
- 優秀賞:「真岡市の公共施設利用について」亀山小学校 6年 はなださとみ いそ さくら 花田里実・磯桜空
- 優秀賞:「先生に『睡眠』を、僕達に『笑顔』を」中村小学校 4年 いしざきあたら 石崎新



# 育てることは育つこと 教えることは学ぶこと



幼いころから、母にも、先生にも、よく言われた言葉がありました。「自分がしてほしいように、人にもしてあげなさい」。「自分がしてほしいことを人にしてはいけません」。ふとしたときに口をついて出そうになるほど「常識」的な人間関係の基本ルール。いわゆる、黄金律（ゴールデンルール）とその否定形である白銀律（シルバールール）です。

「それゆえ、自分にしてほしいと思うことはみな、同じように人にもしなければなりません」2000年以上も前に、イエス・キリストが山上で説いたといわれる一文は、聖書の神髄、根本的倫理原則、などと絶賛されてきたそうですが、とはいえ、その内容はユダヤ教にも、仏教にも、ギリシア哲学にも共通し、まさに普遍的なゴールデンルールと言うことができるでしょう。

ただし、このルール、普遍的であるからこそ、「人はみな、同じである」ということを大前提としています。けれども最近、さまざまな子どもたちや保護者の方々の、まさにとりどりの悩みに触れるとき、このルールの限界を感じてしまうことが増えました。

色白でぽっちゃりして、とても「かわいい」友達に、ほめるつもりで「白豚ちゃん」と言った子がいました。その子は、自分がその言葉を言われたらうれしいと考えたんですね、本当に。男の子に対する「女の子みたいにかわいい」という心からの賛辞がいじめに発展することもあります。

多様性の時代、これから一番大切なのは、いわゆる白金律（プラチナルール）、「相手がしてほしいと思うようにしてあげること」なのでしょう。けれど、それを実行するためには、「自分ならどうか」を考える一歩先、「相手がどうか」を慮る（おもんばかる）ことが必須です。結局、自分を表現し相手を理解する対話（コミュニケーション）が人には一番必要、ということなのかもしれません。

つらつらと、思うところを書かせていただいたこの連載も、今回で最後になりました。

何を隠そう、私も「黄金律」を読み解けずに苦労してきた一人なのですが、そういう「私」を理解してくれる人との出会いに支えられて今があります。……幼いころよりの、物書きになる夢をこうした形でかなえていただいたこともその一つ。心より感謝しつつ……

次は相談室での対話の機会を、楽しみにお待ちしております。

## —真岡市の文化財— No. 11

### 真岡市指定史跡 河野守弘の墓

河野守弘は1793年（寛政5年）大道泉に生まれました。下野国（栃木県）に国誌（地理や歴史をまとめた本）がないことからその作成を志し、約20年の年月をかけて「下野国誌」全12巻を完成させました。

「下野国誌」稿本と印刷用の版木は栃木県指定の文化財に、版木に関する国誌堂と記徳の碑や初版本は真岡市指定の文化財になっており、守弘の業績が大きかったことを物語っています。

旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	鎌倉	南北朝	室町	安土桃山	江戸	明治	大正	昭和	平成	令和
		紀元0年			西暦1000年					江戸					西暦2000年



河野守弘の墓（大道泉）

# つながる・広がる・真岡のコミスク

真岡市では今、学校でコミュニティ・スクール（コミスク）を立ち上げています。コミスクは、地域全体で子どもたちの成長を支え、学校と地域が同じ目標に向かって手を取り合うことを目指しています。令和7年度、真岡市では新たに7つの学校運営協議会が発足しましたので紹介します。

※コミュニティ・スクールは、学校と保護者、地域住民等で構成した「学校運営協議会」を設置した学校のことで、学校運営や教育活動に連携・協働して取り組んでいます。学校運営協議会では、主にそのための話し合い（熟議）が行われます。

## 地域の未来を語り合う「熟議」

学校を核として地域コミュニティの活性化を図ります。

子どもたちの成長と地域の未来を考え、学校と地域が手を取り合い、本音で向き合う対話の場、それが「熟議」です。

### 真岡西小学校



「どんな人になってほしいか  
そのために私たちができること」

### 西田井小学校



「どんな子どもになってほしいか  
そのためにできること」

### 真岡西中学校



「ずっと住み続けたい地域にする  
ためにすべきことは」

## 地域と学校で協働！～活動トピックス～

### 避難訓練：大内中央小学校



学校運営協議会で防災教育について話し合われ、毎年実施している避難訓練に、消防団や消防署の協力を得ることになりました。地域の防災を担う消防団の姿に、子どもたちは「自分の命は自分で守る」こと、そして「地域の絆で命をつなぐ」ことの大切さを再確認しました。

### 山前地区防災キャンプ2025：山前中学校



山前地区公民館まつりと共催で開かれました。VR防災体験や非常食の配布、交流クイズ大会などが行われ、20数名の中学生ボランティアが事前の準備や当日の運営に携わりました。防災意識の高揚に加えて、たくさんの人たちと触れ合うことを通して「地域の絆」を深めることができました。

### 小・中ふれあい活動：長沼中学校区 (長沼小学校・長沼中学校)



普段から地域と学校の距離がとても近く、日常的に協力する関係があります。11月には「さつまいも焼き体験」と「小・中ふれあい活動」が行われました。地域と教員、児童生徒が仲良く協力して取り組みました。ふれあいゲームでは、中学生の考えた活動に児童や地域の方が楽しく参加し、盛り上がりました。

### クリーンアップものべ：物部中学校区 (物部小学校・物部中学校)



コミュニティ・スクールが発足する以前より行われていた「クリーンアップものべ」が11月に実施されました。学校運営協議会の呼びかけに応じた地域住民がたくさん参加する中、小・中学校の児童生徒と教員も一緒になって地区内の清掃に取り組みました。皆、笑顔で地区内をきれいにしていました。

令和8年度は新たに6つの学校運営協議会（真岡小・真岡東小・亀山小・大内西小・真岡中・大内中）が発足することで、市内すべての小・中学校がコミュニティ・スクール（コミスク）となり、地域と連携した活動が市内全域で展開されます。

学校と地域がお互いに手を取り合うことで、子どもたちが心から自慢したくなる場所へと変えていく。それがコミュニティ・スクールの目指す姿です。子どもを真ん中に、大人も元気になる、そんな温かい「地域の輪」が今後も広がっていきます。





## 山前小学校

— 教育目標 —

- 仲良く 助け合う子ども (一日一善)
- ねばり強くがんばる子ども (一日二汗)
- 進んで学習する子ども (一日三考)



山前小のHP



おもいやり しんぼう がじやいも



公式キャラクター「山ポン」



校舎

山前小学校では、子どもたちが毎日を前向きに、そして安心して過ごせる学校を目指し、合言葉として「やり・ぼう・いも」を大切にしています。「やり」は思いやり。「ぼう」は辛抱で、つらいこと、むずかしいこと、めんどろに感じることも、あきらめずにもう少し頑張ってみること。「いも」は、臆せずやってみること、発すること。「ジャガイモでなく、ガジャイモでもOK」。間違っても大丈夫だから自分の考えや思いを伝えてみようとする。学校全体で【間違いOK!】の雰囲気づくりを進めています。この「やり・ぼう・いも」を体現する存在として、公式キャラクターの「山ポン」も、子どもたちに親しまれています。また、体力づくりの一環として行っている校内持久走大会は、市ハイトラ運動公園で実施し、子どもたちは最後まで頑張る姿を見せてくれます。さらに、地域や保護者の皆様と力を合わせた活動も行っています。毎月第2火曜日には「ボラデイ」を実施し、保護者や地域の方と、校舎内外の環境整備を行っています。また、地域と学校がつながる交流活動をするなど、新しい試みがはじまりました。山前小は、今後も子ども・学校・家庭・地域がつながり合いながら、「やり・ぼう・いも」を合言葉に、子どもたちの成長を支えていきます。



ボラデイ



R6持久走大会(高学年男子)



山ポン広場



認知症サポーター養成講座



稲刈り



りんどうの会読み聞かせ



自然教室



運動会

## Hot・ホッと なコーナー



今号は真岡市内小学生の作品を紹介します!!



大内中央小 1年 浅川丈士郎



久下田小 4年 北沢磨希



長田小 5年 金子なな



西田井小 6年 川村華鈴

もう一步努力するところ おもいやりのところ かんじ、考え、学ぼうとするところ



皆様のご意見、ご感想をお寄せください  
アンケートはこちらから!

